

Zoomセミナー用資料

# NY発宇宙セミナー 「スペースX上場と宇宙開発がもたらす投資機会」

---

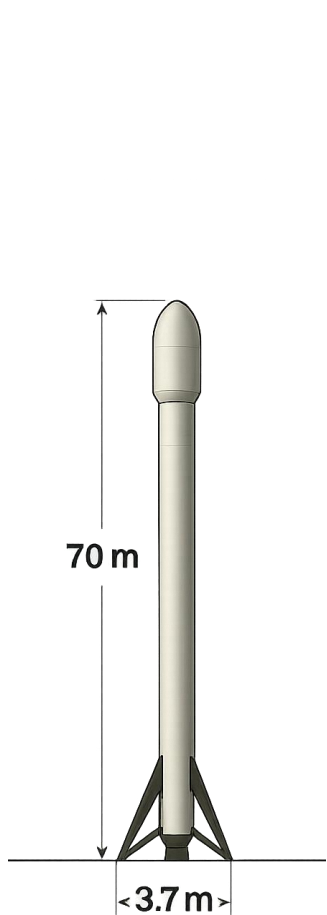
2026年5月27日

ニューヨーク駐在員事務所 所長 荻原 裕司  
投資戦略部 シニアストラテジスト 河田 大輔

# スターシップの登場で、2026年は宇宙産業の転換点に

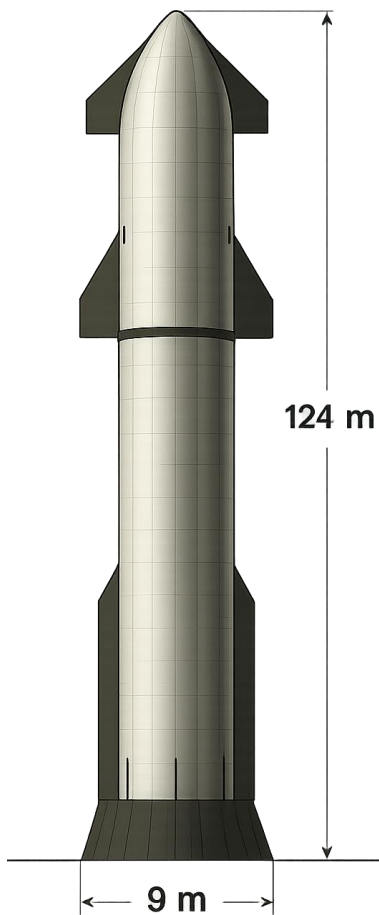
## スペースXのロケットのイメージ

ファルコン9  
(現在の主力機)



イメージはAI生成 (Microsoft Copilot)

スターシップ  
(試験飛行中)



実用段階に近づくスターシップはファルコン9と比べ、機体の大型化が進むほか、再利用可能範囲が拡大  
→宇宙への打ち上げコストが一段と低下し、宇宙ビジネスの領域拡大へ

## スペースXのロケットの比較

	ファルコン9	スターシップ
全長	70m	124m
直径	3.7m	9m
最大貨物重量	22.8トン	100トン超
回収・再利用	1段目のみ	1段目・2段目
主なミッション	・衛星打ち上げ ・ISS (国際宇宙ステーション) への物資輸送	・大型衛星打ち上げ ・月面探査 ・次世代宇宙インフラの構築

\*ファルコン9の最大貨物重量は低軌道時 出所：会社HP他 作成：岡三証券

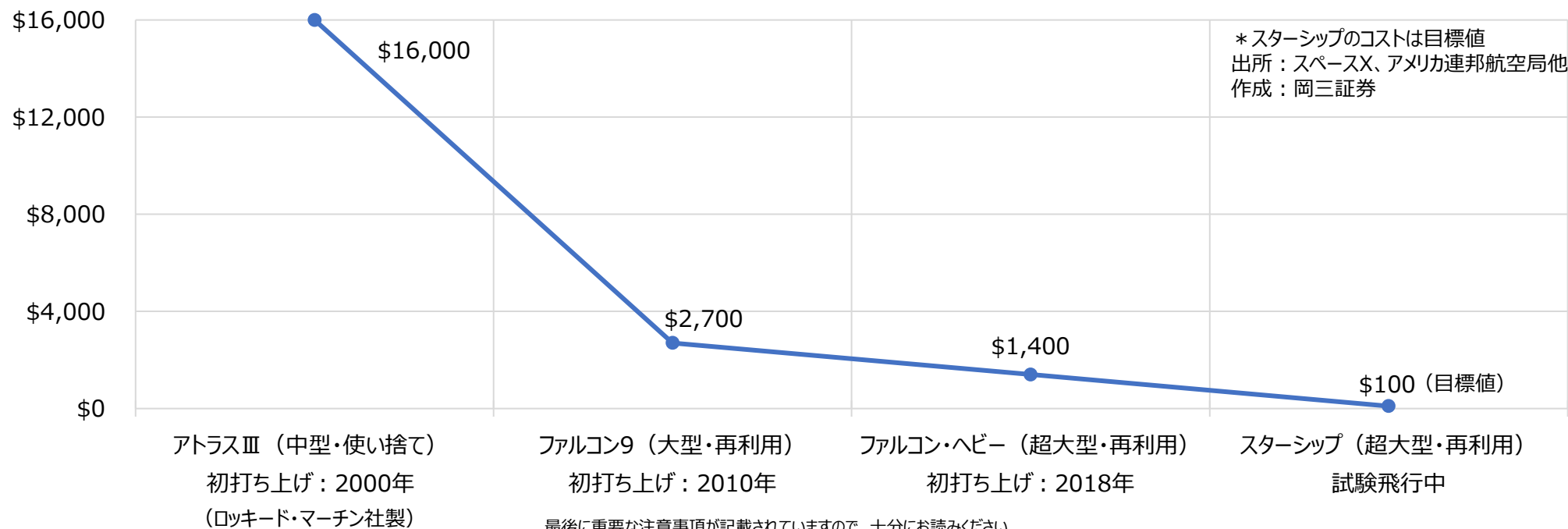
# 「大型化・再利用」の進展がコスト低下を促進し、打ち上げが身近に

## 打ち上げコスト低下のステップ

～コスト低下が進むことで、様々なビジネスを実現へと近づける～

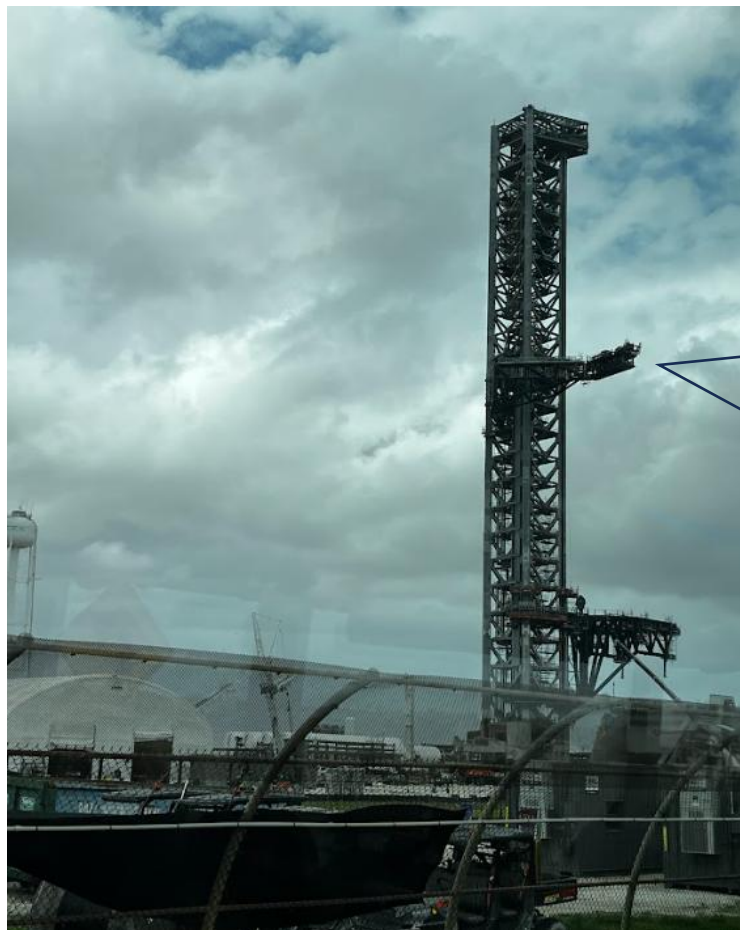
- ① ロケットを「**使い捨て**」から「**再利用型**」に
- ② ロケットを**大型化**し一回当たりの積載量を増加。再利用可能範囲も拡大  
→**大型衛星の打ち上げや、月面探査が実現へ**
- ③ ロケットの**打ち上げ頻度を高め、短期間で繰り返し利用**  
→**宇宙データセンター、宇宙太陽光発電、宇宙旅行、宇宙工場が実現へ**

ロケット別打ち上げコストのイメージ（1kgあたり）



# スペースXは不可能と思われる発想を実現し、ロケット開発を主導

写真：ケネディ宇宙センターの発射施設

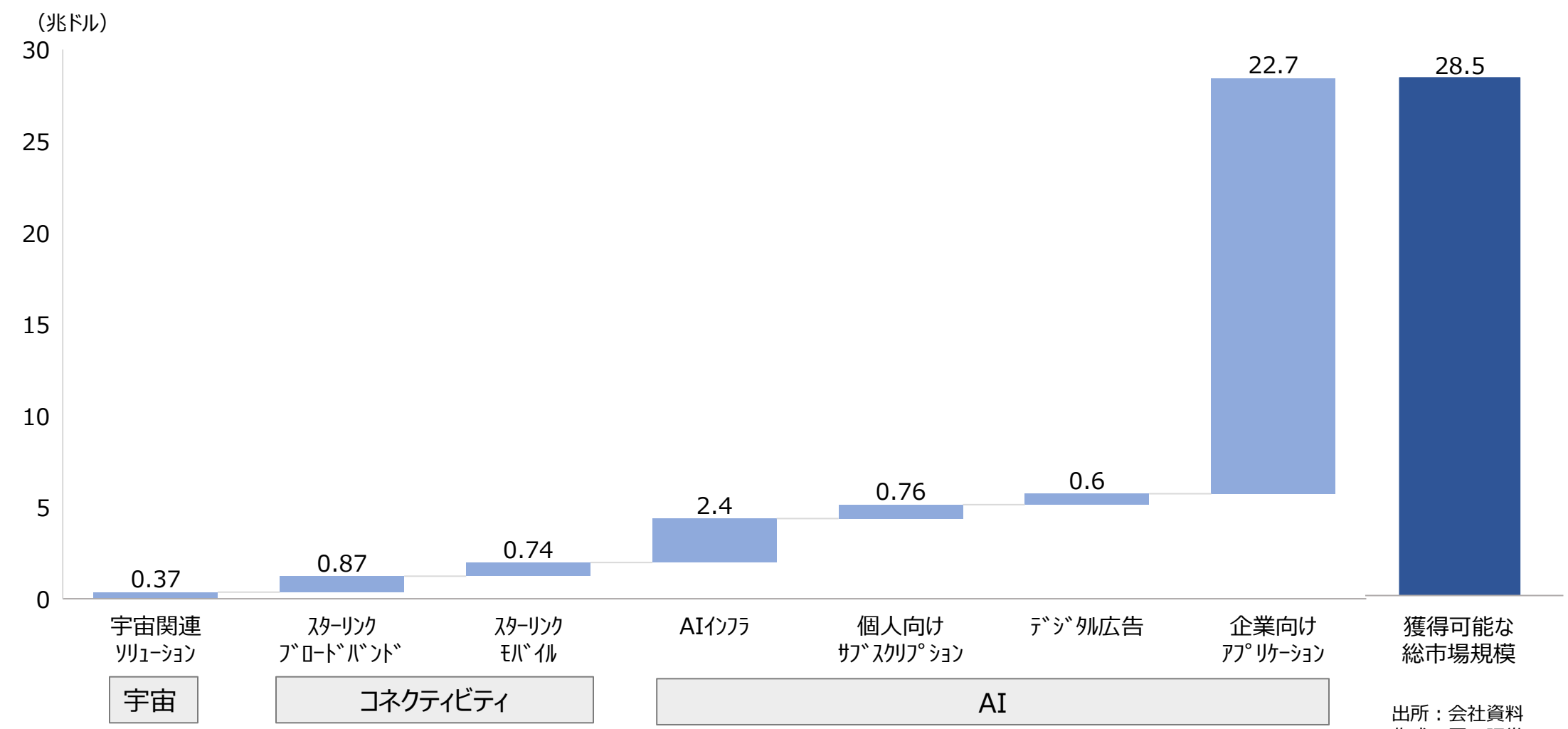


スターシップ用発射台「メカジラ」：  
使用済みロケットブースター（推進装置）  
を2本の腕で回収するという画期的なアプ  
ローチを採用。  
再打ち上げまでの時間も大幅に短縮へ。

※ 「メカジラ」は映画「ゴジラ」に登場するキャラ  
クター「メカゴジラ」から着想を得てイーロン・マ  
スクが命名

撮影：岡三証券

# スペースXが想定するセグメント別「獲得可能な総市場規模(TAM)」



最後に重要な注意事項が記載されていますので、十分にお読みください。

出所：会社資料  
作成：岡三証券

# 今後期待される「スペースX」に関する主なイベント

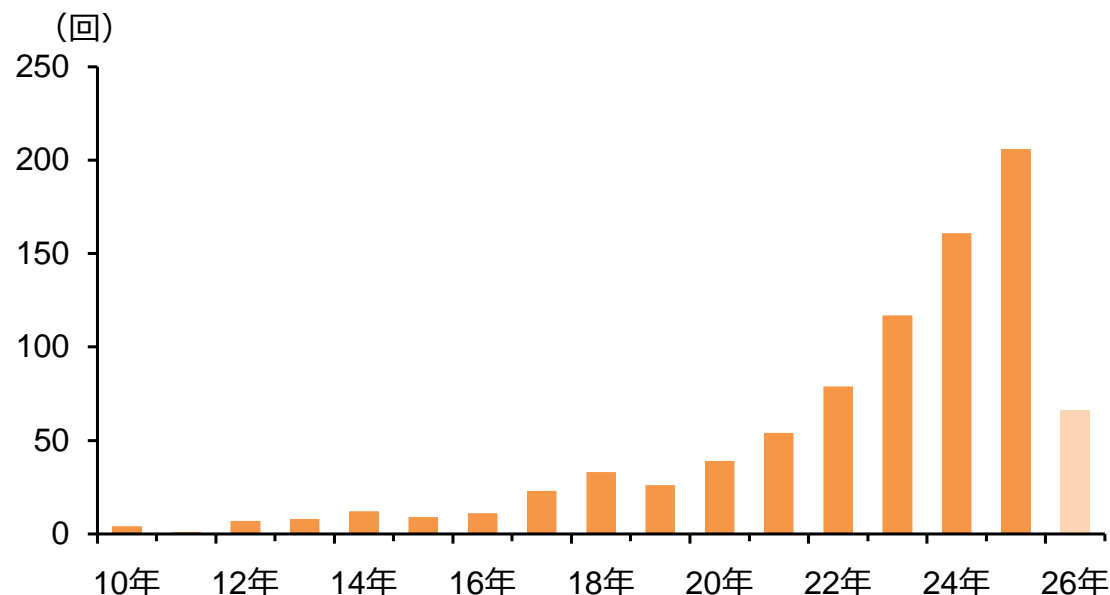
時期	イベント
2026年6月上旬	スペースX 上場
2026年7月上旬	スペースX ナスダック100組み入れ（上場から最短15営業日）
2026年末	スペースX S&P500組み入れ（上場から最短6カ月）
2026年後半	スペースX、スターシップによる軌道へのペイロード（衛星など）輸送開始
2027年	NASAのアルテミス3計画（地球低軌道上ドッキング試験）
2028年	NASAのアルテミス4計画（月面着陸）
2028年（最短）	スペースX、軌道上AIコンピューティング衛星の展開開始

\* イベントがスケジュール通りに実施されることは確定ではない  
出所：各種報道 作成：岡三証券

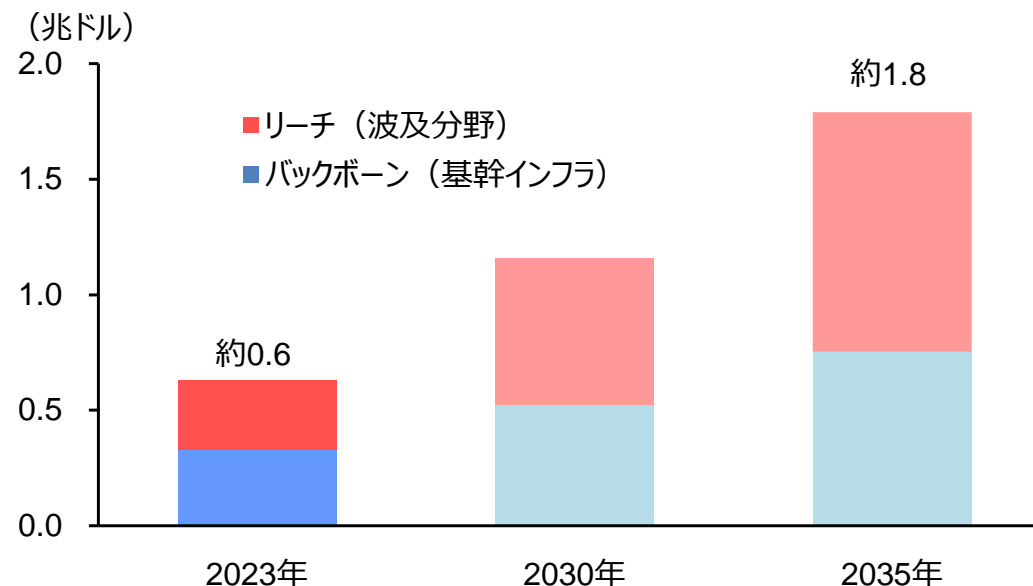
# 周辺領域を巻き込みながら、拡大する宇宙市場

- コスト低下に伴い、ロケットの打ち上げ数が増加・大型化へ。宇宙へのアクセスは更に容易に
- 宇宙経済の市場規模は、2035年に2023年比で約3倍に
- ロケットや人工衛星といったコア領域（基幹インフラ）にとどまらず、通信、防衛、地理空間データ、インフラ管理、AIなど周辺領域（波及分野）を巻き込みつつ、裾野を広げながら拡大へ

### 米国：商業用ロケット打ち上げ回数



### 世界：宇宙経済の市場規模の推移



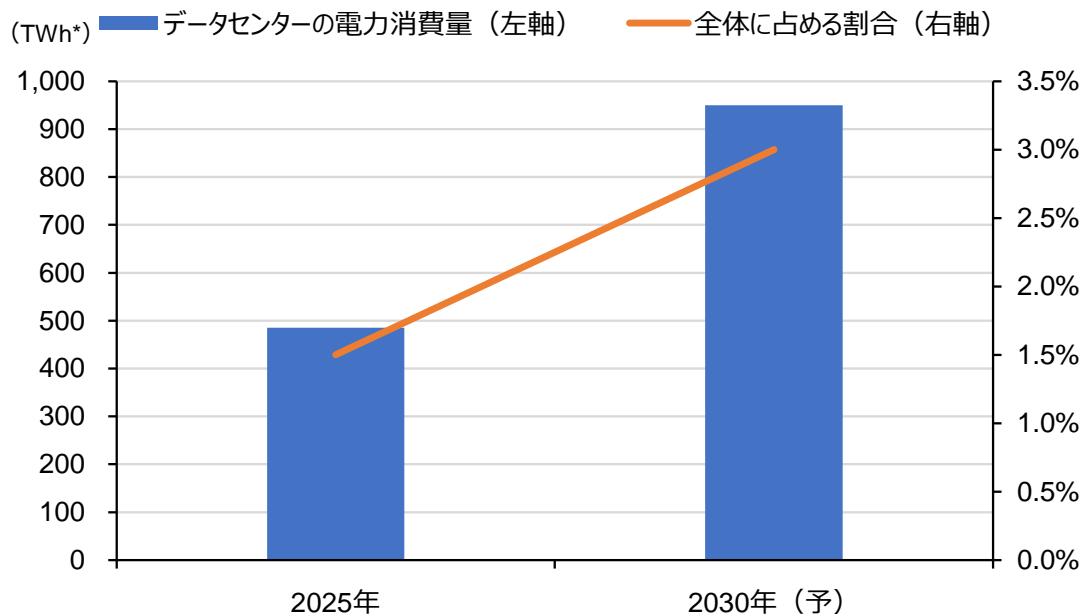
Statistaのデータを基に岡三証券作成 年次  
※2026年は4月27日現在

Statistaのデータを基に岡三証券作成  
※2024年4月現在、2030年以降は予測値

# AI需要が宇宙データセンター構築を後押し

- AIによるデータセンター需要拡大に伴い、地球における建設用地や、電力、冷却設備がボトルネックに
- 人工衛星や月面でのデータセンター構築がこうした課題を抜本的に解決しうる「ラストリゾート」として期待される
- 潤沢な資金を持つ米IT大手がベンチャー企業への投資等を通じて、宇宙への関与を高める

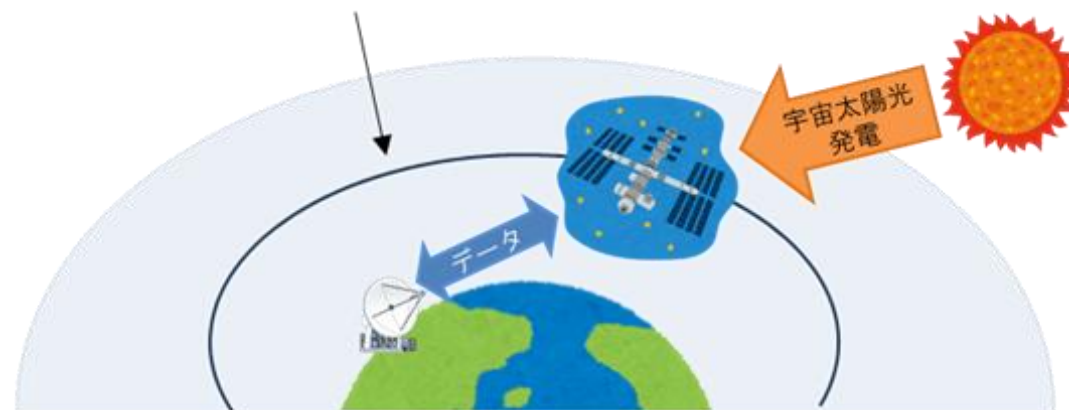
## 世界：データセンターの電力消費量の推移



Statistaのデータを基に岡三証券作成  
2026年4月現在 \*TWhはテラワット時

## 衛星データセンターのイメージ

ドーナズク軌道：夜明け (dawn) と夕暮れ (dusk) の名の通り、地球の明暗境界線上を周回する軌道で、1年を通して太陽光を安定的に受けられる。

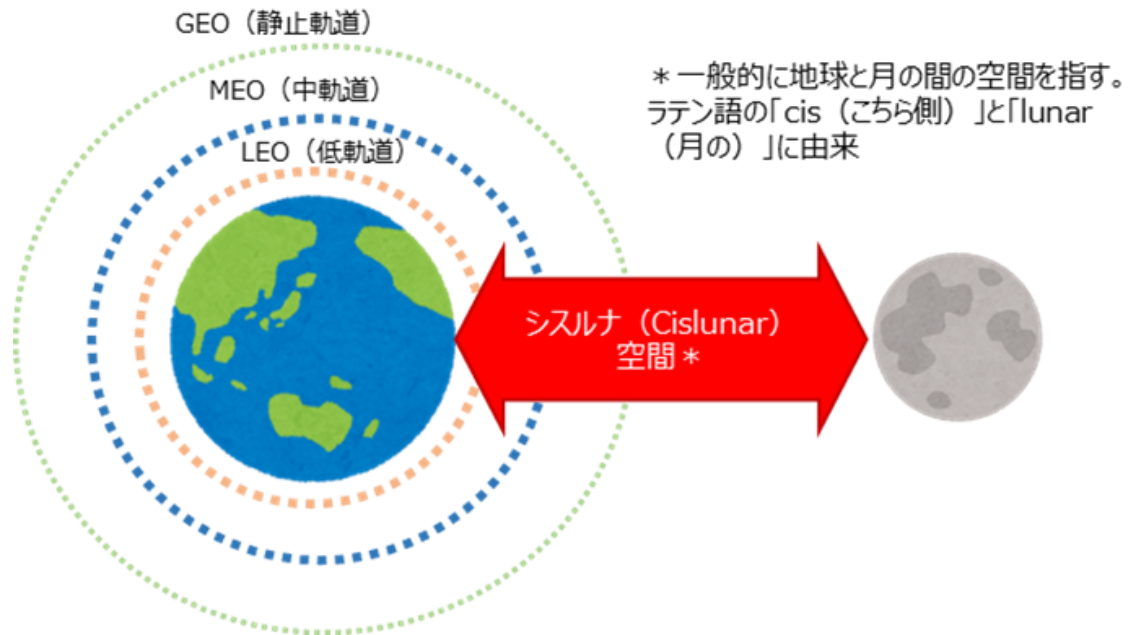


出所：各種資料 作成：岡三証券

# 深宇宙への足掛かりとして、月周辺の開発が本格化へ

- 活動領域が地球と月の間に広がる「シスルナ（Cislunar）空間」まで拡大
- 重力の低い月を製造・打ち上げ拠点として、火星など深宇宙への足掛かりに
- 現時点で月面事業はスペースXの会社計画のTAMに含まれていないが、潜在的な事業規模と範囲は非常に大きい

## シスルナ空間のイメージ



出所：各種資料 作成：岡三証券

## 月と火星の規模や特徴

項目	月	火星
赤道半径	約1,740km	約3,390km
質量	地球の約81分の1	地球の約10分の1
重力	地球の約6分の1	地球の約3分の1
地球からの平均距離	約38.4万km	約2.3億km (約5,500万km～約4億km)
表面温度	-173℃～127℃	-153℃～20℃
大気	ほぼ真空	二酸化炭素・窒素・アルゴンガス
主な資源	水、鉱物、希少ガス	水（極地の氷床）、鉱物

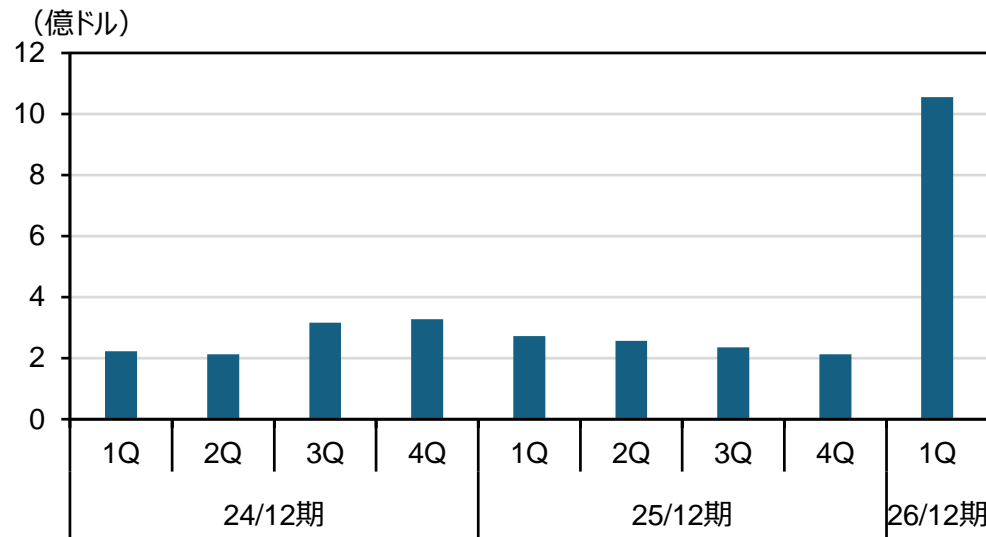
出所：各種資料 作成：岡三証券

# 注目銘柄：インテュイティブ・マシーンズ A (LUNR)

## 注目ポイント

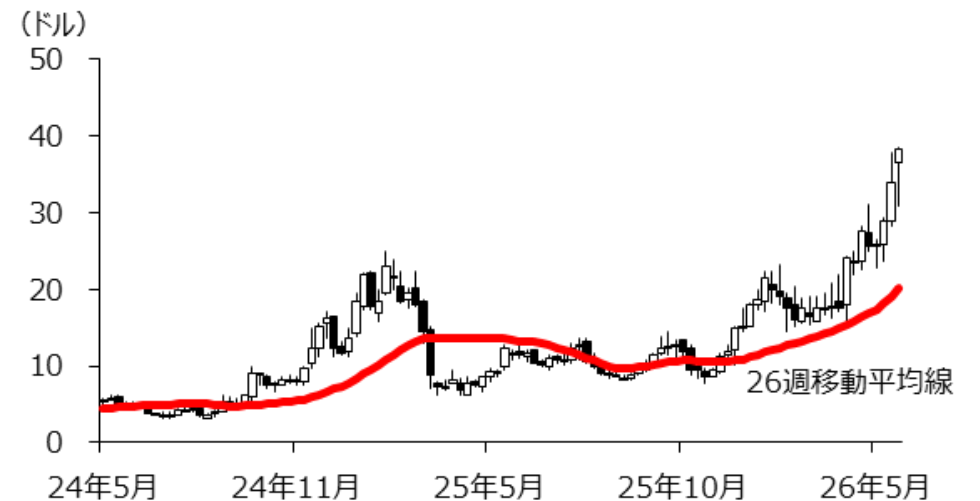
1. 主力事業は月面輸送サービスで、NASAの商業月輸送プログラム（CLPS）を通じて、ペイロード（観測機器・実験装置等の積載物）輸送を展開。2024年には民間企業として世界初の月面着陸に成功
2. M&Aを通じて宇宙船や人工衛星の製造能力を獲得、深宇宙通信分野を強化。宇宙通信ネットワーク構築を推進へ
3. 26/12期1Q期末受注残高は10.55億ドルに拡大。民間および防衛向けの中長期の収益可視性が高まる

### ▼受注残高の推移



出所：LSEG Workspace 作成：岡三証券

### ▼株価推移（週足）



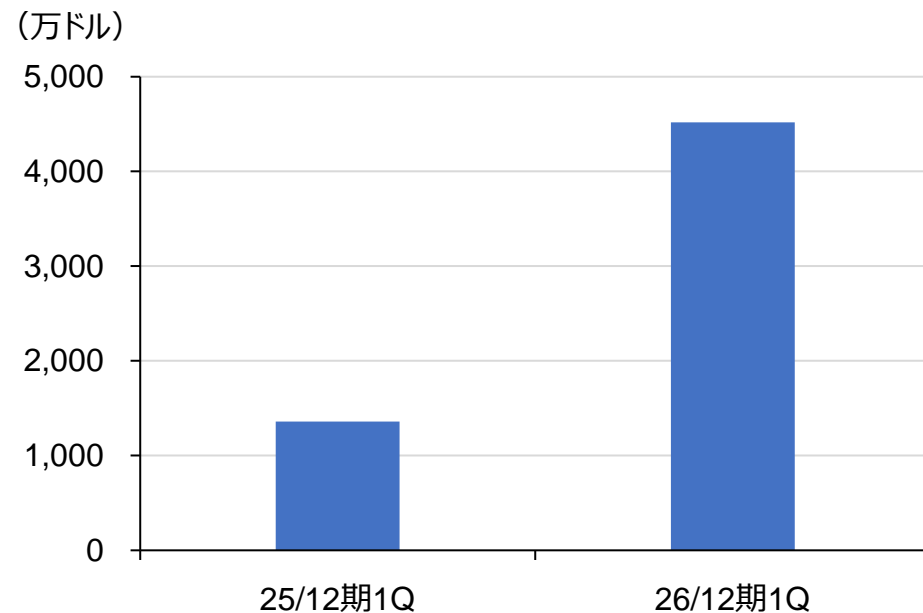
作成：岡三証券 5月22日現在

# 注目銘柄：ボージャー・テクノロジーズ A (VOYG)

## 注目ポイント

1. 宇宙ソリューション事業では、宇宙インフラ、先進宇宙技術、科学システム、ミッションサービスなどを提供。欧州航空大手エアバスなどと合併会社を設立し、商業宇宙ステーション「Starlab（スターラブ）」の開発を進める
2. 2026年1月には光通信用結晶材料の宇宙での製造に関する特許を取得。AIやデータセンター向けに期待
3. 26/12期1Qの防衛・宇宙事業の受注額は前年同期比約3.3倍。1Q末の全体の受注残高は2.75億ドルに拡大

### ▼防衛・宇宙技術事業の受注額の推移



出所：会社資料 作成：岡三証券

### ▼株価推移（週足）



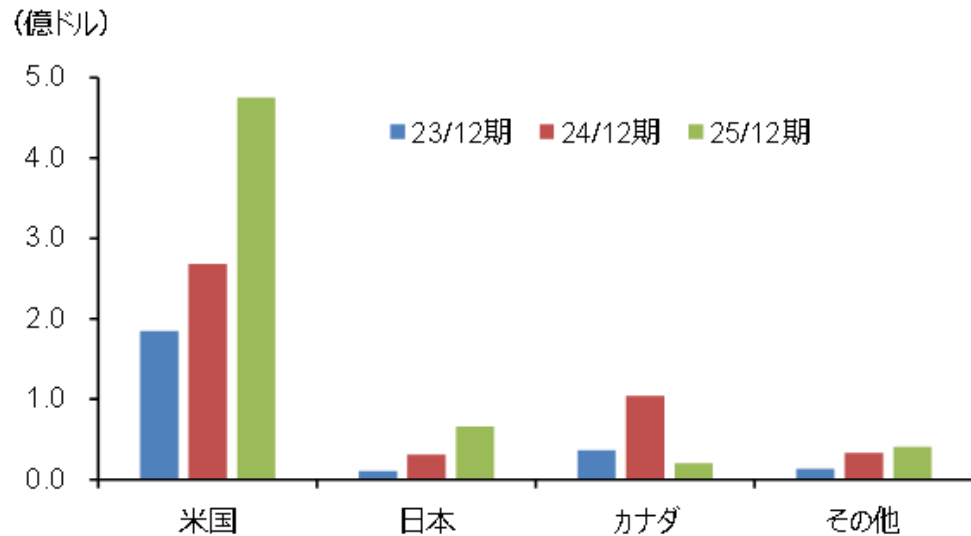
作成：岡三証券 5月22日現在

# 注目銘柄：ロケット・ラブ（RKLB）

## 注目ポイント

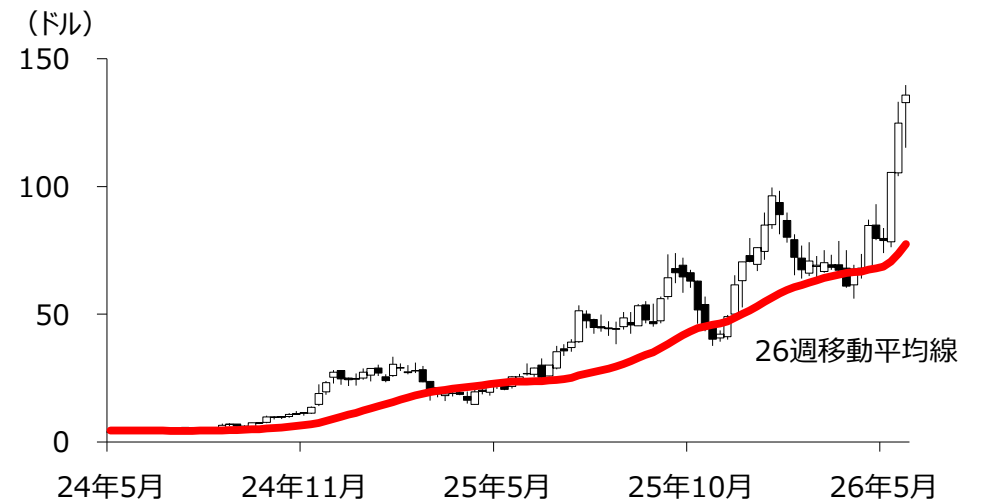
1. 小型ロケット「Electron」による打ち上げサービスを展開。世界有数の打ち上げ実績を持ち、JAXAとは2026年4月に日本の超小型衛星8機を搭載した「Electron」の打ち上げを実施
2. 中型再利用可能ロケット「Neutron」を開発中。2026年後半に初打ち上げ予定
3. M&Aを通じてレーザー通信端末や宇宙ロボット分野にも進出

## ▼地域別売上高の推移



出所：LSEG Workspace 作成：岡三証券

## ▼株価推移（週足）



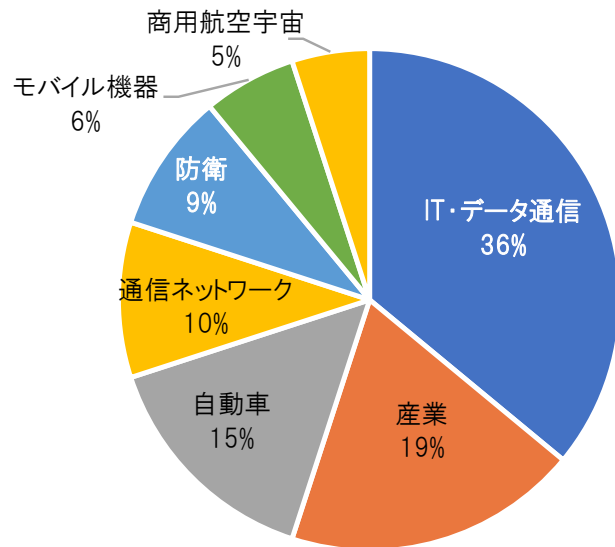
作成：岡三証券 5月22日現在

# 注目銘柄：アンフェノール A (APH)

## 注目ポイント

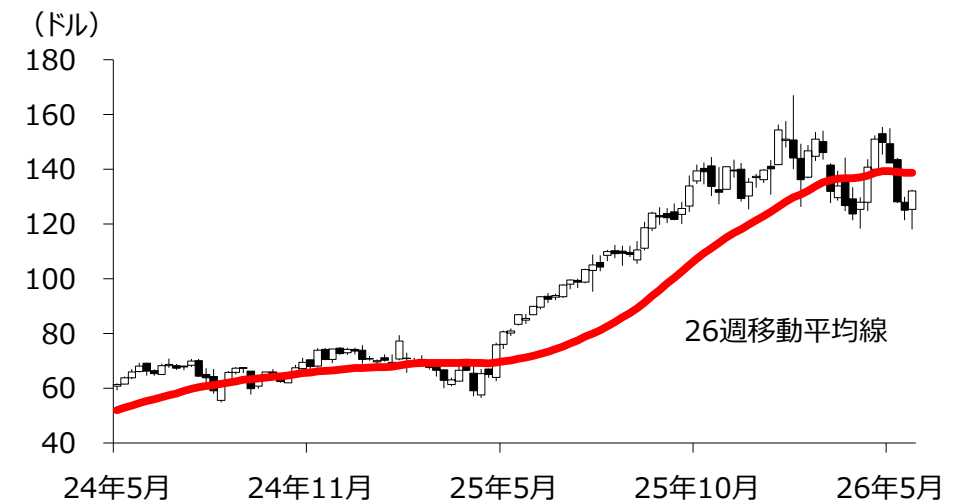
1. 電気回路や電子機器などをつなぐ各種コネクタのほか、センサやアンテナ、同軸、高速特殊ケーブル、相互接続システムの設計、製造、販売を手掛ける。世界40超の国・地域に製造拠点を持つ（2025年）
2. 宇宙の極限状態に耐えるコネクタを提供。有人・無人宇宙船や国際宇宙ステーションなどでの採用実績も有している
3. 26/12期1Qは全市場で増収を達成。特に旺盛なAIインフラ投資を背景に、ITデータ通信市場向けが前年同期比99%増

## ▼市場別の売上高構成比（25/12期）



出所：会社資料 作成：岡三証券

## ▼株価推移（週足）



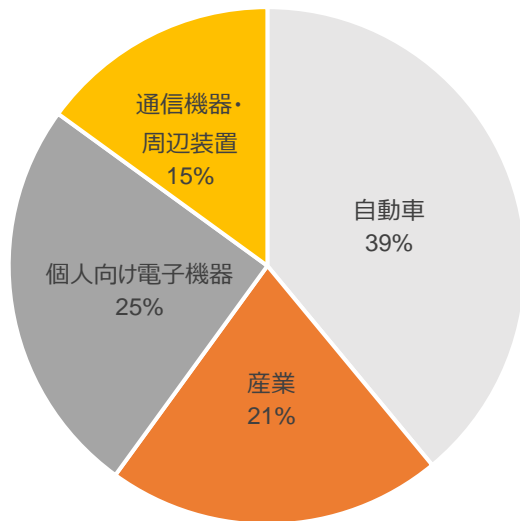
作成：岡三証券 5月22日現在

# 注目銘柄：STマイクロエレクトロニクス ADR (STM)

## 注目ポイント

1. 欧州系半導体大手。車載・産業機器向けで培った高耐久・省電力技術を宇宙通信分野にも展開
2. スペースXとは10年以上の取引関係があり、主要サプライヤーの一つ。2025年12月時点で、スペースXのStarlink向けに無線周波数アンテナチップを50億個超納入しており、今後2年で累計100億個規模への拡大を見込む。
3. 約20万社の顧客基盤を有する一方、2025年売上高の47%を上位10社が占める

## ▼市場別の売上高構成比（25/12期）



出所：会社資料、LSEG Workspace 作成：岡三証券

## ▼株価推移（週足）



作成：岡三証券 5月22日現在

## 重要な注意事項

### 免責事項

- ・本レポートは、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。また、本レポート中の記載内容、数値、図表等は、本レポート作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更される場合があります。なお、本レポートに記載されたいかなる内容も、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。
- ・本レポートは、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。企業が過去の業績を訂正する等により、過去に言及した数値等を修正することがありますが、岡三証券がその責を負うものではありません。
- ・岡三証券及びその関係会社、役職員が、本レポートに記載されている有価証券について、自己売買または委託売買取引を行う場合があります。岡三証券の大量保有報告書の提出状況については、岡三証券のホームページ(<https://www.okasan.co.jp/>)をご参照ください。

### 【手数料およびリスクについての重要な注意事項】

- ・金融商品の購入には手数料等その他の費用がかかります。
- ・金融商品にはリスク(元本損失を生じるおそれ)があります。
- ・取引や商品ごとに手数料等及びリスクが異なりますので、詳細は右記QRコードのリンク先「手数料およびリスクについての重要な注意事項」をよくご確認ください。本QRコード先の手数料は閲覧時点の最新内容であり、本レポート作成時点の条件とは異なる場合があります。リスク・手数料等を記載した書面をご請求される場合、当社コンタクトセンター(☎0120-390603)までお問い合わせ下さい。



<https://www.okasan.co.jp/disclaimer.html>

### 【日本以外の地域における本レポートの配布】

・香港: 本レポートは、香港証券先物委員会(SFC)の監督下にある岡三国際(亜洲)有限公司によって、SFCに規定される適格機関投資家(PI)に配信されたものです。本レポートに関するお問い合わせは岡三国際(亜洲)有限公司にお願いします。

・米国: 本レポートの作成者は、米国の証券業界の自主規制機関(FINRA)にリサーチ・アナリストとして登録されておらず、リサーチレポートの作成およびアナリストの独立性に関する米国規制の適用を受けません。第三者による本調査レポートは、1934年証券取引所法規則第15a-6条(改正を含む)に定められる主要米国機関投資家(Major US Institutional Investors)に対してのみ、米国の証券会社であるWedbush Securities Inc.(1934年証券取引所法第15条に基づき登録、以下「Wedbush」といいます。)により、米国内で配布されます。Wedbushによる米国内の本レポート配布に関してはWedbushが全責任を負うものといたします。本レポートは、いずれかの管轄区域内の法令等によりWedbushが本レポートの提供を禁止または制限されている投資家を対象としたものではありません。本レポートを閲覧する前に、Wedbushが関連法令・規制に基づいてお客様に投資関連資料を提供することが許可されている旨をご自身でご確認ください。本レポートを受領・閲覧し、記載されている証券の取引を希望する米国内の投資家は全て、本レポートの発行者ではなく、以下の者と取引を行う必要があります: Wedbush Securities Inc., 1000 Wilshire Blvd, Los Angeles, California 90017, 電話番号+1(646)604-4232。

・その他の地域: 本レポートは参照情報の提供のみを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。本レポートの受領者は、自身の投資リスクを考慮し、各国の法令、規則及びルール等の適用を受ける可能性があることに注意をする必要があります。地域によっては、本レポートの配布は法律もしくは規則によって禁じられております。本レポートは、配布や発行、使用等を行うことが法律に反したり、岡三証券に何らかの登録やライセンスの取得が要求される国や地域における国民や居住者に対する配布、使用等を目的としたものではありません。

※本レポートは岡三証券が発行するものです。本レポートの著作権は岡三証券に帰属し、その目的いかんを問わず無断で本レポートを複写、複製、配布することを禁じます。

岡三証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第53号

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

(2026年5月改定)